

第28回日本臨床環境医学会学術集会を振り返って

角 田 正 史

第28回日本臨床環境医学会学術集会 会長

新型コロナウイルス感染症流行が未だ収まらず、学術集会も1年延期の上、来る6月に開催という状況下になりました。本雑誌では、ここ数回、学術集会の報告は、発表された特別講演者、シンポジストの方に総説執筆をお願いするという形でなされてきましたが、コロナ禍の中、学術集会の開催方式も変革を迫られる中、まとめた形で従来の学術集会の様子を残しておくことも必要ではないか、と考え、ご報告致します。

第28回日本臨床環境医学会学術集会は、2019年6月22～23日に北里大学プラチナタワー12階において、開催されました。会場については、学術集会の顧問をお願いした、北里大学名誉教授、相澤好治先生のご高配があり、お借りすることができました。学術集会のテーマは「臨床環境医学の過去・現在・未来」で、過去の研究の集積、現在における知見を踏まえた上で、未来に進むひとつのきっかけとしたいと考え、設定致しました。

学術集会は、まず大久保千代次先生（電気安全環境研究所電磁界情報センター）による教育講演「高周波電磁界の生体影響に関する現在の知見」から始まりました。続いて海外からの特別講演、イランのテヘラン医科大学公衆衛生学部の Dr. Amir Hossein Mahvi による「Association between exposure to ambient air pollution before first breath and risk of autism: A population-based study in Tehran」が行われました（写真1）。教育講演は電磁界の生体影響に関する現在の知見を確認する機会になり、特別講演は、国際的視野を研究者として持たなければいけない現在、ひとつのきっかけとして頂きたく企画しまし

た。

総会、評議員会を経て、昼には、さんぎょうい株式会社のご厚意により、ランチョンセミナーを実施しました。本学術集会ではあまり行われたことがないランチョンセミナーでしたが、参加者には好評だったようです。午後には日本医師会認定産業医講習を兼ねて、特別講演「労働環境におけるシックハウス症候群の過去・現在・未来」（相澤好治先生、写真2）、シンポジウム「室内環境の過去・現在・未来」（シンポジスト、岩澤聡子先生（防衛医科大学校）、鈴木幸男先生（北里大学北里研究所病院）、田中茂先生（十文字学園女子大学名誉教授）、内田和彦先生（東京産業保健総合支援センター））が行われました。相澤先生にはシックハウス症候群の研究の流れを、職場環境の知見と合わせて概括して頂き、また学術集会テーマに合わせたシンポジウムでは、室内環境について、空気環境、喫煙、労働衛生と防具、オフィス環境それぞれの視点からシンポジストの先生方



写真1 Dr. Mahvi（テヘラン医科大学）による特別講演



写真2 相澤好治先生による特別講演

に発表頂きました。ランチョンセミナーからシンポジストまでは、日本医師会産業医講習会に参加した外部の産業医の先生にも参加頂き、会場は活況でした。

初日の最後は、ポスターセッションで、メイン会場の会議室に隣接したスペースで行われ、室内環境、たばこ・その他健康、大気・水環境、臨床研究、化学物質過敏症、電磁波過敏症、国際特別発表の分野について、計28のポスターの発表がなされ、活発な議論がなされました（写真3）。

ポスターセッションに引き続き、懇親会が行われ、ベリータダンスの披露などもあり、学会員相互の貴重な交流の場となりました。

2日目はまず一般口演から始まり、化学物質過敏症、建築と物理環境について、計8演題の発表がありました。ついで教育講演として厚生労働省医薬・生活衛生局の蓮見由佳先生による「微量環境化学物質の室内濃度指針値に関する最近の動向について」を講演頂き、現在の微量環境化学物質の室内濃度指針値の設定の動向について、認識を深める機会となりました。教育講演後は、再び一般口演となり、アレルギー、実験的解析の分野について、計8演題が発表されました。

2日目の午後は、教育講演として、中島宏先生（防衛医科大学校）「真菌と室内環境」、原田久先生「健康行動学から見た禁煙」が行われました。続いて初の分科会セッションとして、病院・高齢者施設環境分科会、環境アレルギー分科会、環境過敏症分科会、それぞれから活動報告がなされました。

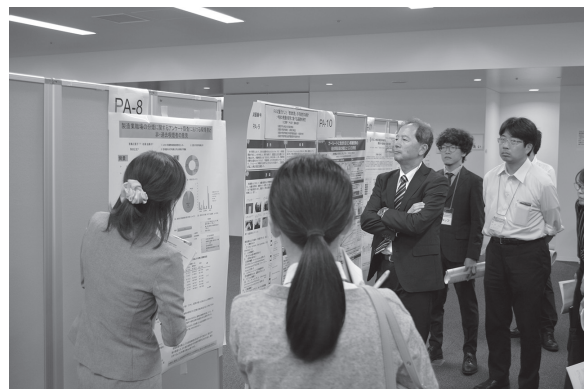


写真3 盛況だったポスター会場

学術集会の最後を飾るシンポジウムに先立っては、表彰式が行われ、学術集會会長賞として、清野正子先生（北里大学薬学部、発表演題「ガドリウムの生体に対する影響評価：オートファジーを指標として」）（写真4A）、若手奨励賞として、木戸尊将先生（東京慈恵会医科大学、発表演題「高濃度フッ素水における尿管閉塞性腎症進展の機序とM2マクロファージの関与」）（写真4B）がそれぞれ受賞されました。

環境過敏症分科会シンポジウムは「環境過敏症の病態解明および発症予防をめざして」と題し、北條祥子先生（環境過敏症分科会代表）、篠永正道先生（国際医療福祉大学熱海病院）、黒岩義之先生（帝京大学医学部附属溝口病院）、渡井健太郎先生（国立病院機構相模原病院）、水城まさみ先生（国立病院機構盛岡医療センター）、上田厚先生（NPO 法人 東アジアヘルスプロモーションネットワークセンター）がシンポジストとして発表されました。

なお、学術集会開会に併せて、北里大学にお願いし、北里柴三郎記念室の開室（通常は土日は開室されておりました）も行い、興味のある方々には良い機会になったかと存じます。

2日間を通じて、学術集会には学会員73名、非学会員48名、学生会員9名の計130名の参加があり、また他に産業医研修会のみ参加者は72名あり、延べ人数で約200名の参加を頂きました。誠に有難うございました。また木村理事長を含め学会関係者の方々、座長の先生方、北里大学の事務方の方々にご協力頂きました。学術集会が盛会の



写真4 表彰式 (A) 学術集会会長賞 清野正子先生、(B) 若手奨励賞 木戸尊将先生

うちに終了しましたことは、皆様のご尽力のお蔭です。改めて御礼申し上げます。

なお、この学術集会に発表された教育講演、特別講演、シンポジウムの一部は本雑誌28巻1号より総説として掲載されております。ご興味がありましたら、ご一読お願いしたいと存じます。今号に掲載されました環境過敏症分科会シンポジウムのシンポジストをされました水城まさみ先生の「化学物質過敏症専門外来から見てきた日本の化学物質過敏症の実態と問題点及び緊急課題」は、水城先生の最後の論文となりました。是非ご一読下さい。